

学域横断的プロジェクト入門《2024》

#4 グループワーク3：リサーチ・プロポーザル

荻谷 千尋・田中 千晶・中野 正俊

3, Jul, 2024

I. 前回の振り返り

- 前回の「授業の感想」（別紙参照）

II. リサーチ・プロポーザル

- 別紙参照（ファイル）
- グループで一枚（一ファイル）を入力して提出

1. スケジュール

- ドラフト：7月24日（水）
 - 印刷したものを授業に持参（ファイル提出を求める場合は別途指示する）
- 最終成果物：8月9日（金）23:25

注意点

（前回簡単に紹介した）引用や参照の表記上のルールとは別に、以下のような先行研究の引用、参照は、不誠実な態度である

- 挙げ足取り
 - 議論、主張、論拠の一部分のみを捉えて、全体を批判する
 - 「揚（げ）足上（げ）足を取る」「人の言った言葉じりや、ちょっとした言いまわしがいをとらえて、大げさに批評したりする」（『新明解国語辞典』第8版）

1. 矮小化

- リサーチクエッションや論文全体の論旨を尊重せず、主張や議論を些細な問題に見せかける

1. 我田引水

- 自分にとって都合が良い箇所のみを強調
 - 「我々が田に水を引く意」強引に自分の都合のいいように計らうこと（『新明解国語辞典』第8版）

1. レッテル貼り

- 先行研究の丁寧な読解を怠り、科学的と言うより、政治的な態度で先行研究を評価
 - 「人にレッテルをはる〔=先入観をもって、ある種類のマイナス評価をくだす〕」（『新明解国語辞典』第8版）

「研究の背景・目的・方法」の書き方

前説

－勉強と研究の違い－勉強：自分の知らないことを学ぶ－研究：学界において明らかになっていないことを探求する、または通説を再検討すること－→ 研究の中心作業：アカデミック・コミュ

ニティが何を知り（共有知）、何をわかっていないのか＝先行研究で何がわかっていないか、を知ること－これからの大学（研究）生活で散々、受ける質問－このリサーチ・クエッションの何が面白いの？ b. なぜこの先行研究なの？ c. 質疑応答時の注意：自分の論をディフェンス（擁護）するという意識 d. 簡単に逃げてはだめ 1. 背景・周知の事実：手短かに説明するだけにする－例：日本の高齢化社会・必ずしも周知の事実ではなく、なおかつ、この項の理解に不可欠な点は丁寧に説明する－例：茨木市の高齢化率：専門用語

目的（リサーチ・クエッション）

・できるだけ具体的な日本語で表現することが大切です－なぜ、いつ、どのようになどの疑問副詞を使うとよい－よくない目的の例－現代日本の少子高齢化の現状と課題を検討する－ダメな理由：目的が広過ぎる－仮想通貨とは何か－ダメな理由：簡単に調べればわかるような目的になっている－「政策提案」を目的としてもよいが、派生的、付随的な位置づけとして書くこと－例：茨木市がこれまで地方創生加速化交付金を何に使ったのか、またそれは茨木市が抱える諸問題にどの程度、有効に活用されたのかを検討する。またこの検討を通して、今後、茨木市は地方創生政策をどのように立案・実施するべきかを提案する・答えられる問い－能力；時間；字数の制約－→問題意識とリサーチクエッションの区別－初学者は混同しがち・答えるに値する問い－個人的；学術的；社会的－個人的：好奇心をもって取り組める課題－自分が面白いと思えることがまずは大切－学術的：学界の共有知（わかっていること／わかっていないこと）を踏まえる－社会的：社会的な問題関心を意識する・「問いをぶつける」、「取り出される問い」－別紙『論文の教室』を参照－複数の問いを考え、問いに答えるには何が必要かを考える－同じテーマであっても、複数の問いをとりだせる 3. 方法・目的（リサーチクエッション）をどのように明らかにするのか－専門的な用語を使ってもよいし、現時点ではっきりしていなければ、無理に専門用語を使う必要はない－例：歴史研究；比較研究；実態（社会）調査研究；理論分析－ただし、何をどのように調べたいのかについてはできるだけ丁寧に説明すること－例：アンケートを取るとしたら、誰にどのようなことを聞きたいか－注意：「文献を調べる」は研究である以上、当然なので書かない（それ以外に何を書けるかを考えること） 4. 社会的意義・研究の目的を達成するが、具体的・实际的に何の役に立つのかを書く・「政策提案」は、目的ではなく、社会的意義として書く（あるいは重複して書く）

IV. グループワーク

- ・リサーチ・プロポーザルの提出を念頭に、あらためて研究テーマ、先行研究、スケジュール、分担について話し合い、作業を進めて下さい

V. 次回までの宿題

1. 授業の感想

回答先と締め切り

- ・回答先：Google Forms
- ・締め切り：2024年7月7日（日）23時59分

2. リーディングアサインメント（予習）

- ・戸田山和久『最新版 論文の教室』（NHKブックス、2022年）
 - 「論文にはダンドリも必要だ」（75ページ「卒論での問題の絞り方」-78ページ「問題の絞り込みに費やされるのがふつうだ」まで）
 - 「論文の種としてのアウトライン」（133ページ「漠然とした問題から明確なアウトラインに至る方法」-148ページ図まで）

Note | 摘出先と締め切り

- ・提出先：Google Forms

・締め切り：2024年7月7日（日）23時59分

引用文献